

IRS カラバフ



# カラバフー “咲いている庭”

ダスキラリーオグリ

アグジャケンド村にの結婚式のお祝い（ケルバジャル）



カラバフ地方は唯一の民俗学地域として太古に成り立った。このプロセスの初期段階は上部旧石器時代に根ざしている（32-12千年前）。その時以来地方住民の物的文化、及び、社会的、精神的、心理的な風貌と歴史の発展の形成が始まった。同時にこの地方の先住民の特殊性が固定した共通のアゼルバイジャンの歴史と文化、民俗学とイデオロギー、経済的・社会生活の範囲内で現れるようになった。

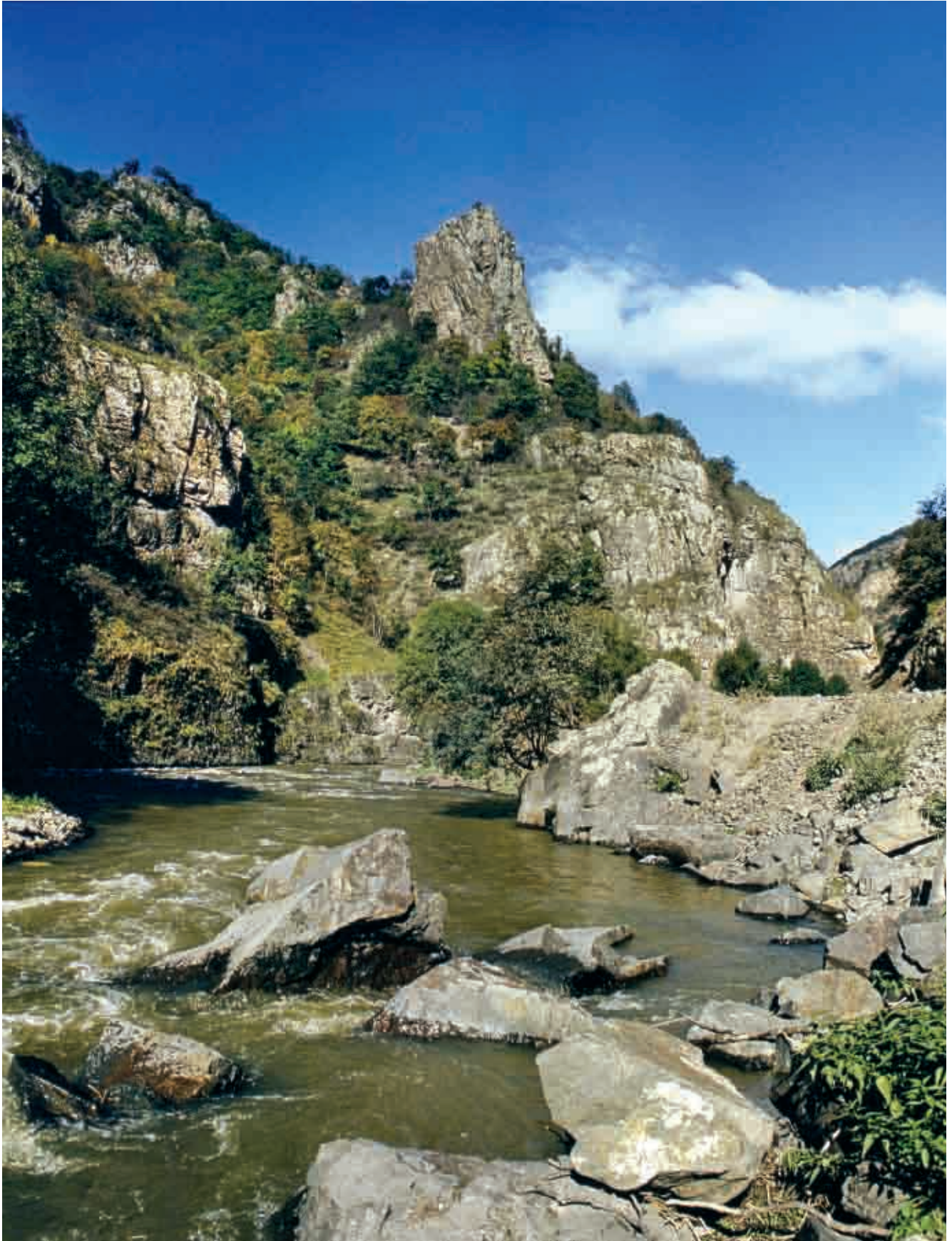
18世紀以来歴史地理学では“カラバフ”という地名が知られるようになった。8世紀のコーカサスアルバニアの歴史家であるモイセイ・カ

ランカツースキンは自分の“アルバニア人の歴史”という本では以前からこの拡大な地方が“アラン”と呼ばれたと言及している。初めて“カラ

バフ”地名は非常に有名な『集史』歴史書の著者であるラシッド・アドーディンというイルハン朝のワズィールでとの文通で会っている



テルテル川、ケルベジェル



# IRS カラバフ

羊石碑、ギョヤルジク村(中世)



(ラシッド・アードーディン。文通。翻訳はファリナによって。モスクワ。1971年。231、244、270ページ)。テュルク語では“カラバフ”は“咲いている大きくて拡大な庭”の意味を持っている。

アゼルバイジャンの歴史・民俗学地方のカラバフはアラスとクラ二河川間の拡大な土地に位置して、西ではゲイチャ湖(セワン)に沿って領土、東ではカスピ海までの領土を含めている。正にカラ

バフには最初で旧ソ連の地域では今まで唯一の、アゼルバイジャンの領土に350万千年前に住んでいた原始人の(ネアンデルタール人の)骨の残物の見つけ物が発見された。カラバフはたいてい全コーカサスと近東を含む分布圏であるクラ・アラス考古学文化の(4-3世紀紀元前)中心部となるのは偶然ではない

(グセイノフ、『アゼルバイジャンの古代旧石器時代』、バクー、1985年；カシ

モヴァ、『アズィーフ洞窟』、バクー、1990年)。

11つの気候滞の中で3つがカラバフには指摘しています。地方は多種の植物誌と動物誌、天然資源に恵まれている。よほど前からカラバフは多角経営の定住農業文化、放牧牧畜業者、手工業と商品、都市、自分の熟練者の技術、詩人と伝承の語り手、英雄と叙事詩の作品で有名である。地方は最初にカフカス・アルバニア王国とシルワン国家

の、後でカラバフ・ハン国、そしてすでにロシア帝国の中にとエリザベトポール県とトビリシ県の中に最も豊富な群の一つだった。そのままにカラバフは自分の特性で抜きん出て、1918-1920年代の独立アゼルバイジャン民主共和国と現在のアゼルバイジャン共和国の奪うことのできない部分になった。

4世紀紀元前からアゼルバ

イジャンの領土に存在したカフカス・アルバニア王国は現在の北アゼルバイジャン、北に古代デルベントから南にアラス川まで、東にカスピ海から西にゲイチャ湖までの地域を含む11つの歴史的な州からなっていた。この拡大な王国の著しい部分はパイタカラン（カスピアナ）、ウチ、ガードマン、アルサーフ、シュニック（ザンガズール）、サカ

セナという州を含むカラバフから成っていた（『アゼルバイジャンの歴史地図』、バクー、1994年）。

5世紀からアルバニア王国の首都パルターフ（バルダ）はカラバフにおいて位置していた。ここではアルバニアの使徒・自主独立教会の主張である大僧正が官邸を持っていた。

その時からカラバフはア







ルバニア（アゼルバイジャン）文化の集約的な発達のゾーンになった。それ故にそれ以来カラバフ歴史・民俗地方はアゼルバイジャンに人気あるのみならず、全コーカサスとそれ以外でも非常に有名になった。その結果は、カラバフ地方の発達の特性が地元の国々の大事な部分となるのに促進した。そういうことはコーカサス・アルバニア王国の時代に（13-14世紀）だけではなく、コーカサス、中央アジアと小アジアの歴史に大きい役割を演じたイルハン朝の時代にも残り続けた。アゼルバイジャンのサファヴィー朝の時代では（16-17世紀）王国は4つの“ベイレーベイ”という州に分かれ、カラバフはその一つになった。サファヴィー朝の時にカラバフの中心にギャンジャとなり、ベイレーベイ地の自身はクラ川とアラス川の間にある拡大な空間を取り囲んだ（ラフマニー、『16世紀後半—17世紀前半におけるアゼルバイジャン』、バクー、1988年、88ページ）。その中に有名なアゼルバイジャンの都市と管区が入っていた。すなわち、バルダ、アクスタファー、バーグシャート、アラズバール、ジャワンシール、ギャンジャ等。

18世紀後半—19世紀前半同地方は首都がシュシャであ

るカラバフハン国の中に、または首都がギャンジャであるギャンジャハン国の中に入った。アゼルバイジャンの20つハン国の中で最も拡大で強大であった6つは全国を奪うためにずっと戦争をしていた。

カラバフ歴史的な地方はアゼルバイジャン標準語と人民音楽芸術の形成に大切な役割を演じた。ここは文化の優れた活動家の多く出身地であり、具体的にという詩人や思想家であるワギフ、ビダディとナタワン；作家と教化者のガサンーベ・ザキールとアブドラギム・アフベディエフ、フィルディンベ・コチャーリとスレイマン・サニ・アフンドフ；アゼルバイジャンオペラやらミュージカルコメディやら交響楽の創始者であるウゼイル・ベ・ガジベイリと彼の弟、優れた政治家、社会評論家や新聞社であるジェイフン・ガジベイリ；ハネンデ（歌手）のハン・シュシンスキとセイド・シュシンスキ；最初のオペラ歌手のビュリービュリと軽演劇歌手のラシッド・ベーブトだ。

アゼルバイジャン人の国民精神、民俗学、次代を担う人達の養育の形成と発達に強い影響を与えたのは“メジリーシ・イ・ウンス”と“メジリーシ・イ・ファラムーシ”というカラバフの文学学校で

ある。全世界で人気を得たのはカラバフの競走馬やら建築術・芸術・じゅうたん学校ということだ。現在まで残ったのはアラス川におけるフダフェリン橋、バルダとシュシャの宮殿とモスクである。カラバフはいつも自分の園芸と養蚕業、ブドウ栽培と綿栽培、牧羊と瓜栽培で世界的に名高かった。

カラバフとその住民と歴史について地元と外国の著者の大多数の証明書がある。その中でいくつかを示せば足够了：“カラバフナーネ”というのはミルザ・アヂゲザルベ、ミルザ・ジャマル・ジャワンシール・ガラバギ、アフメドベ・ジャワンシールによって書かれた歴史的な物語、別に19世紀半ばにカラバフを訪れて、地元のハンに会ったフランスの偉大な作家アレクサンドル・デュマ・ペール、または同様に有名なフランス人であるエリゼ・レキリュ、ロシア人のコーカサス学者であるポット、シャフロヴァ、ゼリンスキー、ベリチコとオスマンの旅行家のエヴリヤ・チェレビの紀行が例として挙げられる。

19世紀前半においては北アゼルバイジャンが兵力を似て占領され、ロシア帝国の中に入ってしまった。地元の国々が絶滅されたというわけ。カラバフ・ハン国の領土にカ





ラレザル橋、アリグルウシャギ村(1867年)



カラバフ州に変更して、その後エリザベトポール県とトビリシ県の中に入った。カラバフでキリスト教化の政策を実行しながら、19世紀から20世紀前半までの間にロシア帝国は大挙してオスマン帝国とイランから多数のアルメニア人をアゼルバイジャンに移住させた。結果として、19世紀の最

初の3分の1においてはここに住んでいたアルメニア人の数は5万2千人か人口の9.3%だけだったら、もう20世紀前半においては120万人か人口の33%に高まったということである（ベルディエヴァ『ロシア帝国の北アゼルバイジャンにおける移民の政策：19世紀前半—20世紀』、バク

一、1999年、235ページ）。これに関する情報、それ以上、全カラバフ地方に関しては“1823年にグルジアの総司令官であるエロモーロフの命令の下に編集されたカラバフ州の描写”（トビリシ、1866年）という公表に入っている。

1917年、ロシア帝国の崩

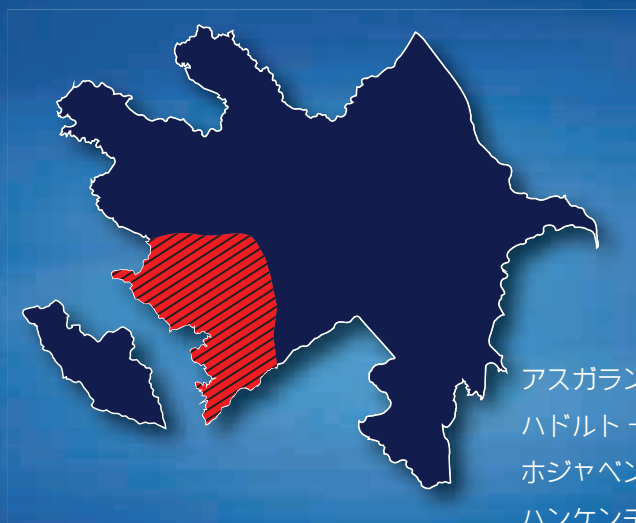
壊後ほとんど全カラバフはアゼルバイジャン民主共和国の中に入ったけれども、その西部はグルジア共和国（ガルドマン地方）とアララト共和国（ザンゲズール地方）の治世に入ることになった。現在でもこのまま残っている。

カラバフは異常に豊富な地方である。何世紀を通じてこの地方はその園芸やら綿栽培やらブドウ栽培やら養蚕業やら牧畜業やら農業でした。カラバフ地方はアゼルバイジャンの他の歴史的な地方とその壮大な自然の美しさ、多様な動植物、天然資源で相違している。ここは様々な人民芸

術が発展の最高レベルに達している地方の一つだった。カラバフ歴史的な地方はアゼルバイジャン標準語と人民音楽芸術の形成に大切な役割を演じた。ここは文化の優れた活動家の多く出身地であり、具体的にいうと詩人や思想家であるワギフ、ビダディーとナタワン；作家と教化者のガサンベー・ザキールとアブドラギーム・アフバーディエフ、フィルディンベー・コチャーリとスレイマン・サニ・アフンドフ；アゼルバイジャンオペラやらミュージカルコメディやら交響楽の創始者であるウゼイル・ベ-

ガジベイリと彼の弟、優れた政治家、社会評論家や新聞社であるジェイフーン・ガジベイリ；ハネンデ（歌手）のハン・シュシンスキとセイド・シュシンスキ；最初のオペラ歌手のビュリービュリと軽演劇歌手のラシッド・ベーブトフ等。注目に値するのはカラバフが旧ソ連の地域に初めて今まで唯一の原始人の骨の残物の見つけ物が発見されたところであるということだ。これらの骨は、350万年前にアゼルバイジャン領土に住んでいた古代の人間に属している。◆

## カラバフがないアゼルバイジャンがない



アルメニアが占領したアゼルバイジャンの地域及び占領日

アスガラン - 1991年	アグデレ - 1993年7月7日
ハドルト - 1991年	アグダム - 1993年7月23日
ホジャバンド - 1991年	キヤルバジャル - 1993年4月2日
ハンケンディ - 1991年	フィズリ - 1993年8月23日
ホジャラル - 1992年2月26日	ジャブライル - 1993年8月23日
シュシャ - 1992年5月8日	グバドリ - 1993年8月31日
ラチン - 1992年5月18日	ザンギラン - 1993年10月29日